

土木学会技術賞（Ⅱグループ）受賞！

「琵琶湖開発事業の建設」

「琵琶湖開発事業」は従来の水資源開発事業の枠を超えた画期的な内容を持つものであり、一つは、我が国において初めて水資源開発と地域開発を一体的に推進し、地域社会との共存を図った事業で、その後の河川総合開発事業の先導的な役割を果たしました。もう一つは、美しい琵琶湖の自然湖沼本来の姿を損ねることなく、事業の中の随所に環境保全を実施し、琵琶湖の自然湖沼としての本来の姿を損なうことなく、水資源開発、および琵琶湖治水という目的を達成したことで、その成果は今日の土木事業における環境対策の先駆的役割を果たしています。この事業が評価され、平成4年度土木学会技術賞を受賞しました。

土木学会賞は、大正9年(1920年)に創設され、90年以上の歴史を持つ権威ある表彰制度です。また技術賞は、昭和40年(1965年)に創設され、東海道新幹線の建設と黒部川第四発電所の建設が、最初の受賞プロジェクトであり、これまで水資源機構(当時は水資源開発公団)は奈良俣ダムの建設プロジェクトにおいて受賞しています。



●土木学会技術賞(Ⅱグループ)とは・・・

「土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト」に授与される賞です。

「琵琶湖開発事業の建設」

① 湖岸堤前浜の確保

数十メートルにわたり湖岸堤前浜を公有地化し、自然景観との調和を図るとともにその消波効果により堤防高を低く抑えることができました。



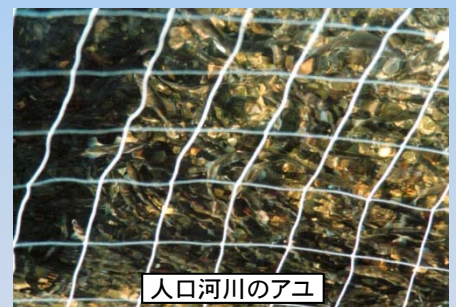
② ヨシ原の復元

ヨシ植栽の試験研究を経て、新たな湖岸堤前浜にヨシ植栽地を造成しました。



③ アユ人工河川の開発

滋賀県と協力して姉川と安曇川の2箇所人工河川を建設しました。



④ 文化遺産と景観の保全

水位低下によって、歴史的な景観を損ねないよう対策を実施しました。

